

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年9月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2870200793		
法人名	有限会社トゥールース		
事業所名	グループホーム六甲		
所在地	神戸市灘区篠原伯母野山町3丁目18-11 (電話) 078-861-2941		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年8月6日	評価確定日	平成20年9月17日

## 【情報提供票より】(平成20年7月24日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 5人, 非常勤 8人, 常勤換算 5.85人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000~85,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	230 円
	または1日当たり		1,330 円	

## (4) 利用者の概要(7月24日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内内科・竹内歯科
---------	-----------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は住宅地であるが、ホーム前の道路は傾斜がきつい。利用者はこの坂道を散歩しているが、ここでの生活が下肢筋力の低下を防ぎ、自然とリハビリになっており、散歩による歩行能力の維持向上が年1回2泊3日の馴染みの場所への旅行に繋がっている。当ホームは地域との繋がりを大切にしており、利用者は職員と共に地域の清掃活動に参加したり、利用者を作った雑巾を近くの中学校に持参し、中学生もホームの草抜きに訪問する等ホーム側から地域との交流を積極的に働きかけている。また、ホームは家族との交流も大切にしており、毎月家族会を開催している。管理者は日々のホームでのケアが介護保険の趣旨に沿っているか絶えず職員と話し合いながら、ホームの運営に情熱を注いでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の自己評価や第三者評価での改善課題について運営推進会議にも報告し、優先順位を考慮しつつその改善に取り組み、一定の成果がみられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価は全職員で話し合い職員主導で取り組んだ。職員同士また、管理者と職員が話し合う過程で、職員の能力や職種によって夫々の項目に対する考え方や思いに温度差があることが見えてきたので、そのすり合わせを行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議は19年度6回、今年度も2ヵ月に1回開催している。会議では、介護職員による医療行為といった課題やホームの地域との交流への取組み状況等を話し合っている。そこで出た意見は職員会議でも検討している。今後、議題の優先順位を考慮しつつ、時には消防や警察へ参加を呼びかけられることが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	1ヵ月に1回家族会を開催している。家族会では家族同士が話しやすいような席の配置にしている。家族会後の個別面談時や家族訪問時は、食事を共にしながら気楽な雰囲気を作り、意見等を気軽に言える機会作りを心がけている。意見等は職員会議で検討し、内容によってはかかりつけ医やかかりつけ薬局とも相談の上、改善に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	利用者の自主的な活動として、雑巾を近隣の中学校に持参したり、手作りの酒饅頭を地域の人々に味わってもらう等地域の人々との交流に努めている。また、地域の清掃活動に利用者が職員と共に参加したり、認知症の勉強会に管理者が講師として参加する等、地域で必要とされる活動や役割を担っている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に運営理念3ヶ条をつくり、その中に「地域の人々によって支えあい、共存してゆくことによって高齢者の理解、地域福祉の発展を目指す」という地域密着型サービスの役割として何が大切かを反映させた理念を取り入れている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示し、管理者と職員は日々のケアや会議の中で理念の中味について話し合いながら理念の共有を図っている。また、利用者と接する時は、利用者一人ひとりの生活暦等の違いを考慮しながら、声かけや態度に理念が反映されるよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会、老人会に加入している。利用者の自主的な活動として雑巾を近隣の中学校に持参したり、手作りの酒饅頭を地域の人々に味わってもらう等地域の人々との交流に努めている。また、地域の清掃活動に利用者が職員と共に参加したり、近隣の中学・高校から要請され、認知症の勉強会に管理者が講師として参加する等地域で必要とされる活動や役割を担っている。地域の人達による二胡の演奏会も約2年継続している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は全職員で話し合い、職員主導で取り組んだ。職員同士、また、管理者と職員が話し合う過程で、職員の能力や職種によって夫々の項目に対する考え方や思いに温度差があることが見えてきたので、すり合わせを行った。前回の自己評価や第三者評価での改善課題について運営推進会議にも報告し、優先順位を考慮しつつその改善に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の民生委員、地域包括支援センター職員、有識者として地域のグループホーム管理者等、また、原則として全家族が参加して19年度は6回、今年度は2カ月に1回開催している。会議では介護職員による医療行為といった課題やホームの地域との交流への取り組み状況等を話し合っている。そこで出た意見は職員会議でも検討している。</p>		<p>議題の優先順位を考慮しつつ、時には消防や警察へ参加を呼びかけることが望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者へホームページ更新の案内、ホーム新聞の持参等ホーム側からの情報提供を行っている。また、疑問点について教えてもらったり、課題解決の協力依頼等を行っている。市の認知症研修の関係者とも情報交換を行い、市との連携に努めている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態を家族との個別面談時や家族訪問時等に報告すると共に、介護記録のコピーを毎月送っている。1カ月に1回家族会を開催し、そこで職員の異動等も説明している。また、預かり金については領収書原本を添付して、収支内容を毎月報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会では家族同士が話しやすいような席の配置にしている。家族会後の個別面談時や家族訪問時は、食事を共にしながら気楽な雰囲気を作り、意見等を気軽に言える機会作りを心がけている。意見等は職員会議で検討し、内容によってはかかりつけ医やかかりつけ薬局とも相談の上改善に取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での異動は、最小限に抑えており、この1年間は異動は行っていない。また、法人の会議は当ホームで行っており、職員が異動後も当ホームに来る頻度は多く、利用者との繋がりを継続する機会を作っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は概ね月1回実施している。職員一人ひとりがスキルアップのための課題・目標を持ち、夫々の段階に応じた外部研修を受講している。受講後は研修報告書を作成し、全職員で情報の共有に努めている。認知症ケア学会には毎年輪番制で参加している。また、近隣のグループホームの管理者(指導者研修修了者)にホームに来てもらい、現場で助言をもらっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県域の宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会に加入している。連絡会での同業者との交流、市内や阪神間のグループホームとの相互見学や勉強会を通じて、認知症ケアについての研鑽を積み重ねている。また、近隣のグループホーム管理者が運営推進会議のメンバーに加わっている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には管理者や職員が利用者宅を訪問し、本人の生活歴や習慣等を本人・家族から聞き取り、ホームでの生活に馴染めるか話し合っている。ホームでのデイサービスや体験宿泊も利用してもらい、ホームの雰囲気に徐徐に馴染めるように工夫している。利用者は利用にあたって、必ずこのプロセスを経て入居している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に過ごし、学び支え合う」関係を日々の暮らしの中で築いていくことの大切さを職員は理解している。介護する立場からは2泊3日の旅行は介護計画の見直しの機会でもあるが、職員も利用者と一緒に楽しんでいる。また、食事作りの場で味付けや包丁の使い方などを利用者から学んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族に生活歴や趣味を聞いたり、日頃の職員と利用者また、利用者同士のなにげない会話の中から一人ひとりの思いや意向を把握し、それを記録化して情報を共有している。意志の疎通が難しい利用者は「何かに触れる」等の利用者の行動パターンから「何をしたいか」ということを本人の視点で把握している。また、一時の言葉や見た目だけで希望や意向を判断せずに、利用者の立場になって職員で話し合っている。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人の利用者について二人の職員が「現存能力チェックシート」を作成し、それをもとに他の職員の意見を聞いて介護計画を作成している。本人・家族の意向を反映させた目標や課題が設定されており、本人にも理解しやすい計画となっている。時には医師や薬剤師の意見も聞き、一人ひとりの現状に合わせて1ヵ月から4ヵ月の間隔で作成している。本人によく説明し、内容を確認してもらった上で、介護計画書に本人の署名をもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>上記の期間毎は勿論のこと、新たな要望や変化が見られた時は変化に応じて関係者で話し合い、介護計画の書き換えを行っている。書き換えにまで至らない場合は「生活計画」としてパソコンに入力し、計画に沿ったケアを実践する上での具体的な支援内容について職員間で情報を共有している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>年1回、時には里帰りを兼ね馴染みの場所へ2泊3日の旅行を実施し、入居前の暮らしの継続を図っている。希望により、利用者がホームでの少人数のデイサービスに参加できるよう柔軟な支援を行っている。また、基本的に区内の医療機関へは職員が通院介助を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者・家族の希望によりかかりつけ医を決めており、入居前からの馴染みの医師がかかりつけ医としている人が多い。かかりつけ薬局もあり、医師・薬剤師とは気軽に相談できる関係を築いている。また、通院介助の方法と受診・受療結果の報告についてのルールを入居時に話し合っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者・家族の希望、意向を入居時に確認し、ホームとして対応できる内容を説明している。本人・家族の意向や状態が変化した時は、ホームとしてできないことを説明の上、かかりつけ医を交えて対応方針を話し合っている。話し合った内容についてはパソコンに入力し、全員で方針を共有している</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ホームページ、運営推進会議、ホーム新聞等で個人情報やプライバシーに関することを利用することについて、本人・家族の了解を得ている。契約書等の文書や個人情報が記載された記録類は鍵のかかる保管庫に保管している。また、退職した職員のパスワードは直ちに削除している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝起きるのが遅い人、お勤めのある人等にはその人の生活習慣を尊重している。外出の希望が多い時間帯は職員の配置を厚くしている。また、管理者を勤務ローテーションに組み込まず、柔軟に支援できるような勤務体制にしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は基本的には管理者が考えており、時には利用者の好みも確認している。食材は新鮮なもの季節のものを随時取り入れ、買い物、調理、片付け等については職員が利用者の意思を尊重しながら共に行っている。また、3食とも職員が同じものを一緒に食べ、共に食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望すれば毎日でも、また、夜に入浴したいという希望が多いので、夜は20時まで職員2人で対応する等利用者一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。髪を洗うのが嫌で入浴を拒む人には洗髪する目的をよく説明して、入浴に対する負担感を軽くする配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者・家族から、また日々の暮らしの中から何がその人の楽しみごとや役割になるかを把握している。掃除、雑巾作り、生け花等利用者が得意としており、習慣としていることを職員が奪わず、利用者が楽しめるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望や状態、天候等の状況に応じてリハビリを兼ねた散歩、美容院（ホームでは訪問美容は使っていない）、仏壇の花を買うために花屋等、利用者が外出を楽しめるよう支援している。歩行が少し難しい人には、車を使っての買い物や近距離の散歩等を行い、他の利用者と外出機会が不均衡にならないよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は24時間開錠しており、利用者の外出気配をチャイムで察知した時は、職員と一緒に付き添って外出している。また、家族や地域の人達もいつでも訪問できるように取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災・地震等の災害時対応マニュアルを作成し、年1回消火器の使い方をはじめ避難誘導訓練を実施している。レトルト食品・水等の非常用食品を備蓄している。しかし、災害時に実際に避難誘導できる方法を全ての職員が身につけているとは言い難い。</p>		<p>ホームでは、今年度夜間帯で訓練を実施することを計画している。今後、2階の利用者に重点を置いた避難誘導訓練の実施や、引き続き地域の人達への共同訓練の呼びかけ等が期待される。また、機会ある毎に職員間でホームの現状と災害時の対応方法を話し合い、実際に避難誘導できる方法を身につけることが望まれる。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食事摂取量を把握し、体重も参考にしながら適性が確保できるよう取り組んでいる。水分については食事以外に10時、15時、外出後、入浴後等にお茶やスポーツドリンク等を大きなコップで飲んでもらい、1日1500cc以上摂取できるよう支援している。献立表のカロリー計算も実施している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームの建物は民家を改造して作られており、居間には暖炉・観葉植物・絵画等があり、また玄関には季節の花が飾られ家庭的な雰囲気の中に生活感・季節感を醸し出す工夫をしている。台所もスペースを広く取り、数台のテーブルを台所中央に寄せて四方から利用者が職員と共に食事作りに参加しやすいよう工夫している。浴室には個浴用の浴槽がある。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>エアコンはホームが準備したものであるが、クローゼットには身の回り品、居室には仏壇・配偶者の写真・絵等馴染みのものが持ち込まれ、カーテンも好みのものを取り付けている。</p>		

 は、重点項目。